学校番号	３０２

平成 31 年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「美術Ⅱ」　（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・様々な「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」など、多種多様な作品を知り、自身の表現を深めていきます。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 ワークシート	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	よく「みる」	手の写生 「割り箸ペン」 「インク」	○	○	○		a:一番身近な「自分の手」をしっかり観察し、発見する。 b:対象を凝視し、形だけでなく質感や存在感もつかむ。 c:割り箸ペン独特の、滲んだり掠れたりするタッチでの描写を工夫する。	制作の様子 作品
	よく「みる」	自画像 鉛筆描写による自画像。	○	○	○	○	a:見慣れた「自分の顔」を今一度凝視し、その造形を描出する。 b:「こういう形をしているんだ」という発見をし、自分の顔パーツの特徴をつかまえる。 c:鉛筆でのタッチに留意し、「塗る」ではなく「描く」ことを意識する。 d:教科書に載っているさまざまな作者を自画像を参考に、顔の角度や細部の表現まで研究する。	制作の様子 作品
	水彩絵の具を学ぶ	色彩 ・水彩絵の具の混色や色味をプリントで学ぶ ・自画像に着彩する。	○	○	○		a:水彩絵の具の特徴を掴み、水分量や混色で生まれる色を把握する。 b:肌の質感や髪の質感を水彩絵の具のみで表現する。白と黒を使用せず、混色で黒を作るにはどうすればよいのか考える。 c:１年で学んだアクリルガッシュ絵の具との違いを感じる。	制作の様子 作品

前期	アバター	自身のキャラクター化によるアバター制作。 先の自画像を元に、自身をデザイン化し、色紙の切り絵にて制作する。	○	○	○	○	a:リアルに、シリアスに、だけではない、楽しい表現を工夫する。 b:自分の特徴を捉え、強調したり省略したりして、より「似てる」状態を探る。 c:ハサミ・カッター・デザインナイフ・マスキングテープ等々、様々な道具・材料を使用し、「自分」を創り上げる。 d:仕上がった作品をクラス内で鑑賞しあう。	アイデア 制作の様子 制作途中の作品 作品
後期	リトグラフ版画	木版リトグラフ ベニヤ板に描写し、アラビアゴムと版画用インクによる化学反応で印刷する	○	○	○		a:木に描いたものがそのまま複写される面白さ、印刷の面白さを知る。 b:描写の力加減や濃淡にこだわる。 c:ロートレックやミュシャなど古くから仕様されてきた技法であることを知る。	制作の様子 制作途中の作品 作品
	点描画	点描画 「つけペン」 「インク」	○	○	○		a:普通に「描く」のではなく、点の集積で画面が出来上がっていくことを理解する。 b:模写的な要素が強いが、作者なりのイメージを入れて「作品」として創造する。 c:点の粗密による変化をつけ、陰影だけでなく色味も感じるよう制作する。	制作の様子 制作途中の作品 作品